大分縣の植物地理上注意すべき事項

田　代　善　太　郎

1．暖地性植物分布

大分県南部に於ける暖地性植物

此地方は佐賀関以南日向国境に至る沿海の地で日向南部につぐ暖地で島嶼、岬角、港湾多く人為の毀損及ばざる処あるを以て注意すべき暖地性植物がよく保存せられて居る。特に僻陬の地に存する社叢に於て然り、そこには独り暖地性のもののみならず南北両系の木本や草木が混在して種類に富み、昔ながらの形態を備へいて海岸林套には大木や蔓木がよく発達して趣味ある処である。なお此地方に於ける代表的山林を諸所に見るは幸なりというべきである。即ち日向国境に近き蒲江地方に於ては海流と植物との関係を如実に示すものあり、されど其考察は総体を通観し之に各個の島の特徴を合せて知るを得べし。津久見島には殆んどすべての種類が保存せらる。しかも植物の変遷は時々刻々に行はる、失はれたるもあれば地形の変化に伴ふて不明となりたるもある。蒲江元猿に於けるグンバイヒルガホが、道路工事のために絶滅に帰したる高島に於ける特別工事のためにビロウ、ミヤコジマツヅラフヂ等の変化の如きは其著例である。今に於て十分調査を遂げると共に保存に充分務めたきものと思う。それはさておき今蒲江より注意すべき植物の産地を一巡してみん。

蒲江の南方名護屋にもハマナツメという刺の多い珍奇な植物がある。蒲江では王子神社をまもりて海岸一帯にスナゴセウという多肉のめづらしき草本あり津久見町字堅浦にもあり此種を本土に産するは大隅南部を除いては珍らしいことでキノクニスゲ亦多し。

王子神社附近のシマクロギの大樹は珍重すべきものなり。沖合の深島にはビロウ、モクタチバナ、セウベンノキ、ヒゼンマユミ、カウシウウヤク、ナシカヅラ、ホウライカヅラ、サカキカヅラ、クワクワツガユ（大木）トキハカモメヅル、アヲノクマタケラン、モロコシサウ、キキヤウラン、スナゴセウ、ヒゲスゲ、シホカゼテンツキの如き、此地方の代表的暖地性植物が保存せられている。鶴見岬にてイブキビヤクシン、モクタチバナあり、九州本土に之を産する北限は佐賀なり、アヲギリ、ナギ点在しアブラギリの自生明瞭（清原善太郎氏に拠る）ナシカヅラ、シタキサウの大蔓木あり。竹野浦にはビロウが数本あり以前には多かりしと云う。附近の島嶼黒島にはビロウ31本を数へ、オホバグミ、クワクワツガユ、ツヅラフヂ、ハカマカヅラなどの蔓木発達す。モクタチバナ、イハガネ、ヒゼンマユミあり、スナゴセウ亦多し。附近の横島には、ヒゼンマユミ、間越にはキキヤウラン、キンギンナスビ、ハマオモー多く北面の中浦にはウバメガシ、モチノキよく発育し、ホウライカヅラ大木あり。大島にはアコウの大樹あるを以て知らる（周囲2丈以上のもの6本あり）カウシウウヤク北限をなし、ナシカヅラの大木やナンバンキブシ多くノアサガホを広く産す。

佐伯湾の北部を限る蒲戸半島にも可なりの特色ありナギ、ヲガタマノキ、可なりに多く、ウバメガシ、マサキの周囲1米以上のもの多し、アヲギリ、センダンは数百を以て数ふる程なり。シマクロギ相当多し、クワクワツガユの大木ありてトキハカモメヅル多し、ボウラン、マツバラン亦多し、イブキビヤクシンは鶴見岬と共に多し。津久見島にも種々なる代表植物あり分布の限界をなす。セウベンノキ、ヒゼンマユミ、モクタチバナ（多）トキハガキあり、ハドノキ多く周囲1米に及ぶものあり。ヲガタマノキ点在、シユロ、スナゴセウ、キノクニスゲ、オホイハヒトデ、ハカマカヅラ、クワクワツガユ、シタキサウあり。

保戸島にてモクタチバナあるがめだつ。無垢島にてモクタチバナ、スナゴセウあり、種類少きは毀損を受けたるが為めならん。

佐賀関は豊予海峡地区の北端にして、分布上北限をなすものにアカウ、シマクロギ、オホムラサキシキブ、モクタチバナ、ハマビハ、ハマキイチゴ、ハマヒサカキ、ビロウドカヂイチゴ、タマシダ、ボタンボウフウ、メジロホホヅキ、キンギンナスビ等シマシヤリンバイ、ハマビハ、サツマスゲ、ノシラン、ツルソバ等発達す。

次になお時に暖地性植物の此段階に於て注意すべき種類につき之を述ぶべし（後記の表参照）

第1に此段階に止まる目標植物として大切なるビロウは既に諸処に失はれて僅に黒島に群落を留むるに過ぎざるは前述せる処なるが、北限産地高島にてなお1本を止むる由（大正11年には23本ありしと思う）ヘツカニガキ、ヒゼンマユミ、セウベンノキ、イヘガネ、カウシウウヤク、シマイヅセンリヤウ、フヂウツギ、メジロホホヅキ、サツマルリミノキ、ミヤコジマツヅラフヂ、サキシマボタンヅルは散在するも分布上の段階を表す大切な植物にして、セウベンノキは大隅、薩摩に次いで多し。モクタチバナは枝を落す生態あり

て、人の注意をひく、之は豊予海峡の洋上に及ぶものありて潮風を受くるところにあり。暖流系植物として著名なるボロボロノキは小野市村宗太郎及藏中野にあり、アブラギリは南部の東中浦や蒲江峠に多く自生状をなす、日田郡の権現岳に於けるも同様なり、マテバシヒ、シヤリンバイ、サザンクハの分布を精確に調ぶること必要なり、草本にて此圏内に代表的の位置を占むるものはハマユウなり、また前記のスナゴセウである。ツルソバ、ヒメノボタン、ハヒキビ、コササキビの如きはいづれも、ここに分布の限界を見るもので注意すべきである。

羊齒類につきては蒲江にシロヤマゼンマイあり、傾山にツルホラゴケあり、青山にホソバノハチジヤウシダあり。タマシダは佐賀関に止まり、タチデンダは中野の地獄谷、石灰洞にありホウライシダは南部各地に多きもホウライクシヤクは小半にのみ産する、ナンカクランの入洋にあるは珍らし。

以上は概論にとどめたるも豊予海峡には暖地性植物多く今之を一表に記さん□の中に植物名を入れたるは分布の限界をなす植物なり。

さて今暖地性植物を通観すれど海峡の両側九州と四国とでは其成立の時期もちがへば、植物にも多少のちがひがあるべきであり、また毀損の程度もちがふので四国のそれは種類及び発育に於て九州に及ばぬのである。両者をしらべて比較考察をなすべきなり。大分県としてはさきに出納国満氏の調査をつとめるあり、富久福太郎氏、清原善太郎氏、小野学氏の人々之をつとめ清原氏殆んど之を完成す。愛媛県にては山本一氏、諸方松藏氏、山下幸平氏、今泉虎雄氏等の人々之を踏査するも上便の地なお充分なりという能はざるが如し。

大分県南部に於ける暖地性植物表

ナギ、イヌマキ、ヤマモモ、イチヰガシ、ウバメガシ、マテバぐヒ、スダジヒ、ムクノキ、アキニレ、アコウ、イヌビハ、ホソバイヌビハ、ヤマモガシ、ボロボロノキ、ヤマグルマ、ヲガタマノキ、クスノキ、タブノキ、カゴノキ、ヤブニツケイ、ハマビハ、バリバリノキ、イヌガシ、シロダモ、トベラ、バクチノキ、ビハ、カナメモチ、リンボク、ネムノキ、タチバナ、カラスサンセウ、シマクロギ、センダン、ヒメユヅリハ、カンコノキ、シラキ、アカメガシハ、（アブラギリ）（栽培か）ハゼノキ、クロガネモチ、モチノキ、ヒゼンマユミ、セウベンノキ、ゴンズキ、ヤマビハホルトノキ、コバンモチ、アヲギリ、ヤブツバキ、サザンクワ、モクコク、サカキ、ヒサカキ、ハマヒサカキ、イイギリ、クスドイゲ、カクレミノ、アセボ、モクタチバナ、タイミンタチバナ、トキハガキ、リウキウマメガキ、カンサブラウノキ、クロキ、クロバヒ、ミミズバイ、ハマクサギ、ヘツカニガキ、ミサヲノキ、サンゴジユ、ビロウ

潅木性木本

センリヤウ、ハドノキ、ヤナギイチゴ、イハガネ、オホバヤドリギ、カウシウウヤク、シヤリンバイ、シマシヤリンバイ、フユザンシヨウ、ミソナホシ、ヒトツバハギ、ハマナツメ、ナンバンキブシ、ヤツデ、アヲキ、イヅセンリヤウ、シマイヅセンリヤウ、マンリヤウ、ツルカウジ、コフヂウツギ、オホムラサキシキブ、メシロホホヅキ、サツマルリミノキ、アリドホシ、ジユズネノキ類、クチナシ、ダンチク

蔓本性木本

オホイタビ、ワセオホイタビ、ヒメイタビ、イタビカヅラ、クワクワツガユ、サキシマボタンヅル、ムベ、ミヤコジマツヅラフヂ、ツヅラフヂ、ハスノハカヅラ、サネカヅラ、テリハノイバラ、ホウロクイチゴ、ハカマカヅラ、ナツフヂ、ウドカヅラ、ナシカヅラ、マルバグミ、ツルグミ、リウキウキヅタ、ホウライカヅラ、サカキカヅラ、テイカカヅラ、チヨウジカヅラ、トキハカモメヅル、シタキサウ、キジヨラン、ノアサガホ、カギカヅラ、シラタマカヅラ、ヘクソカヅラ、ハマニンドウ、キダチニンドウ

草　木

スナゴセウ、ツルソバ、マルバアカザ、シマキツネノボタン、タイドゴメ、ハマナタマメ（蔓）、シバハギ、トキハヤブハギ、イハダイゲキ、ヒメノボタン、ボタンボウフウ、ルリハコベ、イヨカヅラ、グンバイヒルガホ（蔓絶滅）キンギンナスビ、キダチイナモリ、オホカラスウリ（蔓）ツクシメナモミ、ハマヨモギ、クマノギク、ウスベニニガナ、ノヂギク、アゼタウチ、ハヒキビ、コササキビ、ビロウドキビ、セイコノヨシ、○○○ケモドキ、トキハススキ、ヒメアブラススキ、ヒゲスゲ、キノクニスゲ、サツマスゲ、シホカゼテンツキ、ヒトモトススキ、ムサシアブミ、キキヤウラン、ノシラン、クサスギカヅラ（蔓）ハマユウ、ニガカシウ、ハナメウガ、タイサギサウ、コクラン、ナギラン、ナゴラン、フウラン、ミヤマムギラン、カシノキラン、セキコク、ボウラン

羊　齒

マツバラン、ナンカクラン、ツルホラゴケ、シロヤマゼンマイ、タマシダ、オリヅルシダ、ナガサキシダ、ホウライシダ、ホウライクシヤク、ヒメウラジロ、エビガラシダ、イシカゲマナガバノイタチシダ、アヲガネシダ、ホソバカナワラビ、オホイハヒトデ、シシンラン、ミヅワラビ

大分県の豊予海峡以北の地方に於ける暖地性植物（等温線を見合せてかくこと）

大分より別府までの傾斜地と国東半島さては宇佐下毛の沿海地帯とに生存する自生植物の種類と栽植する植物発育の状態とを対照すれば其間には大気の温度の影響による大した変化はない様である。

今はまづ其中から暖地性植物として注意すべきものを挙ぐれば宇佐の八幡宮社叢及国東桜八幡宮の社叢にナギあり、宇佐の社叢及大貞公園にミミズバイあり、高崎山麓及大貞公園にはヤマモカシあり、バクチノキは柞原、別府、宇佐の社叢を始め速見郡や国東半島の各地にあり隣県の福岡県筑上郡山田村の大富神社の社叢にも及ぶ、ここはヲガタマノキの稚樹多きを以て知らる、サンゴジユ、モクコクまた各地に散在し後者は国東半島に特に多し。

イスノキは広く散在するも柞原八幡社に存するもの大にして且多し、ネコノチチもやや広く分布する。なお特に注意をひくべきものに国東半島の伊美村にはタナバナ、奈狩江村にはハマナツメ桜八幡の社叢等にハクサンボク、姫島其他に散在するシヤリンバイ、国東半島地方を分布の限界とするホウロクイチゴありツルソバ、ルリハコベあり又日出にヒメノボタンあり、オホイタビヤやフウトウカヅラは広く散在す、之を栽植品と対照すれば日出松屋寺の大蘇鉄、守江村のナツメヤシ、柞原八幡及宇佐神宮のクスノキ（自生も散在す）及イスノキ、各地栽植のダイサンチク、シユロチク、リユウゼツラン先年亀川にて開花夾竹桃、ヒギリ、樫柳、ツルムラサキ、サボテン類、甘蔗、柑橘等の栽植品の発育はよく此地方の気候を語るものというべきである。

自生する暖地性植物には右の外に左記の種類等あり、イヌマキ、ヤマモモ、イチヰガシ（海岸を距る遠きに及ぶ）スダジヒ、イヌビワ、ホソバイタビハ、ヤマグルマ（山地に限りに生ず鶴崎山に多し）シキミ、タブノキ、ヤブニツケイ、カゴノキ、イヌガシ、バリバリノキ、クスノキ、リンボク、ネムノキ、カラスザンセウ、センダン（自生状をなす）アカメガシハ、アブラギリ、（両子山其他に自生状をなすという）ヒメユヅリハ、シラキ、ハゼノキ、クロガネモチ、モチノキ、ナナミノキ、シヒモチ宇佐郡明治村三島社の社叢にありヤマビハ、サカキ、ヒサカキ、ヤブツバキ、ホルトノキ、コバンモチ、イイギリ、クスドイゲ、カクレミノ、ヤツデ、シヤシヤンポ、ネヂキ、ネズミモチ、クロキ、クロバイ、ハマクサギ、センリヤウ、イハガネ、キミヅ、オホバヤドリキ、フユザンセウ、ツルシキミ、カンコノキ、コバンノキ、ハマボウ、イヅセンリヤウ、ルリミノキ、クチナシ、アリドホシ類、ヒメイタビ、イタビカヅラ、クワクワツガユ（やや広く分布するも大蔓茎次第に失はる）オホバウマノスズクサ、コバノボタンヅル、ハスノハカヅラ、ツヅラフヂ、サネカヅラ、ウドカヅラ、マルバグミ、キヅタ、キジヨラン（南北海海岸及仙花山多し）ホウライカヅラ、サカキカヅラ、テイカカヅラ、カギカヅラ、ハマニンドウ、キダチニンドウ、シマキツネノボタン、オニバス、ヒメノボタン、ボタンボウフウ、クマツヅラ、ハダカホホヅキ、ヲギノツメ、オホカラスウリ、ネコノシタ、ヌマダイコン、ツハブキ、ノヂギク（広く分布す）ヒトモトススキ、クロタマガヤツリ、ムギガラカヤツリ、（珍大貞池）カガシラ（大貞池）ヲノヘテンツキ、マルバツユクサ、キンバイザサ、コキンバイザサ、ムサシアブミ、ムラサキムサシアブミ、ボウラン

羊齒類ではホウビシダ、ナガバノイタチシダ、シラガシダ、カウザキシダ（東椎屋滝）オホヒメワラビモドキ、オホカグマ、モエシマシダ、テツポシダ、ミヅスギ

別府にモエシマシダ、テツポシダ（大貞池奥部にも之を見る）オリヅルシダあり又鬼落の硫気孔附近にミヅスギあり此等の発生と成長とは温泉地帯なるが故にこの特殊現象と見るものである。（昭和16年、稿）